
平成 31 年

3 月の普及活動状況

ダイジェスト版

～県下 10 農林事務所農業普及課と農業経営課(農業革新支援センター)の取組～



岐阜県農政部農業経営課

新たなブランドづくり

揖斐農林■紅茶 ブランド化に向けた研修会を開催

美濃いび茶の可能性を広げるため一部の生産者は近年、紅茶の生産に取り組んでいる。品質の向上には様々な紅茶に触れ、国内外のトレンドを把握することは必須である。そこで、大阪で紅茶を扱う専門の販売店から講師を招聘し、紅茶の正しい淹れ方、各種紅茶の試飲を通じて最高級の味を知る研修を農業普及課の主催で開催した。当日は生産者や関係者16名が参加し、約20種の茶葉の外観と香りを比較し、来歴や製品の特徴、評価基準を学んだ。続いて専用のポットで抽出し、渋味、香り、うま味のバランスなどを体感・評価した。約6時間に及ぶ長時間の研修にもかかわらず最後まで質問が途切れることなく、紅茶生産に対する生産者の高い熱意が伺えた。講師からは「揖斐郡にも非常にクオリティの高い紅茶がある。今後は楽しみだ。」とコメントをいただき、当地域の紅茶生産に対する高い可能性が示唆された。今後も上質な発酵茶を製造販売できるよう支援を継続する。



【最高を知ることが第一歩】

東濃農林■アスパラガス 次年度収量増加を目指し研修会を開催

3月15日、農業普及課では、今春の出荷を前に、アスパラガスの栽培研修会を行った。研修会には、生産者の他、市・JA担当者ら11名が参加した。30年度の栽培では、夏期の収量増加を目指して取り組むことを目標に、適正なかん水・肥培管理について重点的に説明を行った。

30年、管内では、夏期の高温と水不足により、アスパラガスの萌芽が抑制され、収量が伸び悩む状況が見られた。アスパラガスは夏場に売れる野菜として、農産物直売所でも定着しつつあることから、出荷期間を通して、安定して収穫できる栽培技術の確立が求められている。

農業普及課では、引き続き夏期の安定出荷に向けた実証ほを設置するなど、技術確立に取り組むとともに、生産拡大に向け、支援を行っていく。



【春季の管理に関する研修】

多様な担い手づくり

郡上農林■担い手育成 新規就農者・若手農業者激励会を開催

3月15日に郡上指導農業士会・郡上地区青年農業士連絡協議会・郡上園芸特産振興会の主催により、新規就農者・若手農業者激励会を開催した。当日は担い手リーダー、各生産組織の代表者、関係機関職員などを含めて48名が出席し、新規就農者と若手農業者を激励した。

この激励会は、農業普及課が運営を支援しているもので、今回で3回目の開催となる。30年度は、農林事務所長から郡上トマトの学校やあすなる農業塾を卒業して農業経営を開始した2名に対して、「清流の国ぎふ担い手証書」の授与を行った。

この会は、地元農業者や関係者に新規就農者を知ってもらう良い機会であると共に、作目や年令、地域を越えた交流の場にもなっており、今後もこの様な企画を継続していく。



【激励会の様子】

可茂農林■美濃白川就農応援会議 **研修修了式が開催される**

3月15日、黒川マルケにて美濃白川就農応援会議研修修了式が開催された。

30年度の研修生3名に修了証が手渡され、白川町長はじめ来賓の方々から、研修の労いと4月からの就農等に向けた激励の言葉がかけられた。

30年度の研修生は、1名が白川町内にて新規就農、1名が農場責任者として派遣元の会社へ戻ることになっている。

また、修了式に先立ち全体会議が開催され、30年度事業報告と31年度事業計画が承認された。31年度は、国の農業次世代人材投資事業（準備型）の制度改正に伴い、当会議にて準備型給付金を受給する研修生1名を受け入れることとしている。

農業普及課では、引き続き美濃白川就農応援会議の活動を積極的に支援し、担い手の育成・確保を進めていく。



【抱負を語る研修生】

売れるブランドづくり

岐阜農林■水稻 **岐阜県GAP導入研修会開催**

3月16日、JAぎふ合渡支店において、岐阜県GAP導入研修会を開催した。対象となる(有)合渡水田夢クラブでは、米で岐阜県GAP確認を受ける計画があり、その実施に向けた研修会を、役員7名を対象に行った。

農業普及課から、岐阜県GAP確認制度の概要や農場管理基準について説明し、自己点検を実施するよう指導を行った。今後、4月頃までに農場管理基準の自己点検を実施し、31年度末頃には申請書類を提出する予定である。

農業普及課では、引き続き当該経営体の岐阜県GAP確認へ向けて、関係機関と協力して支援を進めていく。



【研修会の様子】

西濃農林■GAP

神戸町下宮青果部会協議会 ごと下宮GAP組織が岐阜県GAP確認制度の認証を取得 We did it!

神戸町下宮青果部会協議会では、GAPに取り組むため「ごと下宮GAP組織」を立ち上げ、岐阜県GAP確認制度認証取得に向けて、1月～2月に生産者10名（面積9.8ha、品目：小松菜、水菜、ゴーヤ）、団体事務局（JAにしみの下宮支店）、施設（神戸集出荷センター）の審査を受けた結果、3月に取得することができた。

3月22日には、西濃農林事務所において、ごと下宮GAP組織の北村安幸会長に対して、確認通知書の伝達式を行い、更なる産地の発展について意見交換した。

また、次年度以降に取得を目指す生産者6名は、第4回の勉強会を3月11日に行い、農場評価シートの内容について協議した。今後、農場評価シートによる自己点検を行い、改善を行うことになる。



【県GAP確認通知書伝達式】

中濃農林■ゆず **かみのほゆず産地戦略会議開催**

農業普及課は、新たなブランド創出支援事業を活用し「かみのほゆず」のブランド力向上に取り組んできた。

3月6日には、かみのほゆず(株)、ゆず生産者代表、JAめぐみの、関市東商工会、関市農林課、県農業経営課の関係者による産地戦略会議を開催した。

会議では、30年度の出荷、販売、生産者意向調査の結果等について情報共有し、課題である出荷量の確保、販売額の増加に向けた対策を提案した。また、生産者と関係機関が一体となってブランド化を進めるための産地方針を、31年度春からの産地戦略会議で策定することについて出席者の合意が得られた。



【会議の様子】

下呂農林■水稻 **岐阜県GAP確認通知書を交付**

3月18日、(資)源丸屋ファームに下呂農林事務所長から「岐阜県GAP確認通知書」が交付された。

県では、食品安全・環境保全・労働安全などの観点から農業生産の持続性を確保するため「岐阜県GAP(農業生産工程管理)確認制度」を一昨年11月に創設、農業審査員による現地審査等を経て、管内ではエゴマに続き2例目の交付となった。

農業普及課では、GAPに取り組むにあたって点検項目チェックや改善対策の指導などを行い、今回の確認通知書交付に至った。

今後も、農業普及課では管内のGAPの取り組みを維持、拡大するため、今回の米に加えて野菜等の生産者へも取り組み支援を行う。



【山崎所長から交付を受ける生産者】

飛騨農林■もも **『飛騨おとめ』栽培マニュアルが完成**

岐阜県で育成されたオリジナルもも品種「飛騨おとめ」の特性を活かした高品質栽培の実践と普及拡大を図るため、栽培方法をまとめた独自マニュアルを作成した。

現在、管内では約2.8haの面積で「飛騨おとめ」が栽培されており、JAひだ果実出荷組合協議会総会において、現地における栽培上の課題の早期解決を図るため協議を進めている。

今後、農業普及課では、栽培講習会などの機会に本マニュアルを活用し、生産者の技術向上を図ることで、「飛騨おとめ」の生産と産地振興を支援していく。



【JAひだ果実出荷組合協議会総会】

革新支援センター■飛騨牛 **飛騨和牛生産協議会青年部GAP研修会**

3月11日夜、高山市のJAひだ農業管理センターにおいて飛騨和牛生産協議会青年部研修会が開催され、農家や農協職員等約50名が参加した。

研修会では、農業経営課の農業革新支援専門員が「飛騨牛輸出とHACCP強化・家畜の快適性について」と題してGAP(農業生産工程管理)についての講演を行った。

飛騨牛は平成29年度の輸出量が43.2t(前年比176%)と急増し、輸出用の処理を行う飛騨ミートの相場は高値で推移しているなか、諸外国への輸出にあたっては食品の安全性に加え、環境保護、労働安全、家畜の快適性等のいわゆるGAPの取り組みが重視されてきている。

研修会では、岐阜県HACCP認証第1号を取得した飛騨ミートの状況や、現在飛騨牛生産で取り組まれている「農場HACCP認証」と東京オリ・パラで要求される「JGAP家畜・畜産



【飛騨牛GAP研修会】

物認証」との違い、GAP実践時の問題点等について説明を行った。

EUでは食肉処理施設内で12時間以上絶食されることが禁止され、EU向けに出荷される飛騨ミートの牛についても、夜間の給餌やそのビデオ撮影が義務付けられていること等に農家は驚いていた。

県には、畜産農家への高度な知識、技術の普及を通じて、健康な飛騨牛づくりを支援する体制を一層強化することが期待されている。

住みよい農村づくり

恵那農林■クリ クリ栽培移住者と語る会を開催！

恵那市栗栽培振興会主催による恵那暮らし体験事業「クリ栽培移住者と語る会」が、恵那市笠置町のカフェ日天月天と現地ほ場で3月6日に開催された。この会は、クリをきっかけに恵那市へ移住し、就農した方の話を聞き、就農や移住について考え、参加者で自由に語り合うことを目的としたもの。クリ若手生産者や移住・就農希望者10名、関係機関8名が参加し、自由に意見交換をした。

参加者それぞれが様々な境遇の中からこの会に参加しており、様々な意見が混ざり合ったことで、新たな活動に発展する可能性を感じられた。

農業普及課では、多様な担い手づくりでクリ産地維持への取り組みを支援している。



【参加者集合】